

## 〔小児科〕

### 1．研修内容

原則的に2カ月間、小児の疾患に対する診療を経験する。急性疾患、救急疾患が多いため、プライマリケアに関する適切な対処方法も学ぶ。

未熟児、病的新生児については協力型臨床研修病院にて研修を行う。

### 2．一般目標

小児の特性を理解し、指導医の下で、一般的な小児疾患の診断、治療を行う。特に、小児には発育・発達という生理的な年齢による変化があり、成人と異なる疾患、病態が多い。また接する相手が患児及び家族となるため、児・家族との接し方、診察法、検査の選択と解釈、基本的な手技、治療薬の用法用量など成人と異なる部分が多いので、留意すること等も学ぶ。

### 3．行動目標

- (1) 小児の正常な発育発達について理解する。
- (2) 乳幼児期の栄養法についての概要を理解する。
- (3) 患児、家族との接し方を修得し、情報の聴取や療養の指導が的確に行える。
- (4) 小児の全身の診察ができる。
- (5) 発熱、嘔吐、咳嗽など頻度の高い症状について、年齢を考慮した的確な診断ができる。
- (6) 処置、治療に関する基本的手技を実施することができる。
- (7) 適切な検査を選択し、年齢を考慮した上で検査結果の評価ができる。
- (8) 診察所見や検査結果から、おおよその重症度を把握できる。
- (9) 診断に基づき、適切な治療法を選択し治療計画を作成することができる。
- (10) 薬剤については、児の年齢、体重、重症度などに応じた投与量、投与経路、剤型の選択ができる。
- (11) 安静、運動制限、食事などについて、患児・家族に療養上の指導ができる。

### 4．研修目標

- (1) 経験した方がよい主要疾患

- 1) 必須項目

ウイルス感染症（麻疹、水痘、流行性耳下腺炎、インフルエンザ、突発

性発疹)

細菌感染症(溶連菌感染症、頸部リンパ節炎)

呼吸器疾患(咽頭炎、気管支炎、喘息様気管支炎、肺炎、クループ症候群)

消化器疾患(急性胃腸炎、虫垂炎、腸重積)

アレルギー疾患(気管支喘息、食事アレルギー、アトピー性皮膚炎)

川崎病

血液疾患(鉄欠乏性貧血、血小板減少性紫斑病)

栄養代謝疾患(脱水症、肥満)

腎泌尿器疾患(尿路感染症、急性腎炎、慢性腎炎)

神経疾患(熱性けいれん、てんかん、無菌性髄膜炎、発達遅滞)

事故(異物誤飲)

## 2) 努力項目

伝染性単核症、化膿性髄膜炎、白血病、1型糖尿病、ネフローゼ症候群、血管性紫斑病、染色体異常

## (2) 研修すべき主な診断検査法

1) 研修内容チェック表の項目

2) 身体計測

3) 検温

4) 年齢に応じた血圧測定法

5) 経皮酸素飽和度の測定法

6) 検査のための薬剤による鎮静

## (3) 研修すべき手技・治療法

1) 研修内容チェック表の項目

2) 酸素吸入

3) 経管栄養

4) 処置時の抑制

5) 腸重積の非観血的整復法

6) けいれん重積の処置

7) 気管支喘息発作の処置

## 5. 研修実績

入院患者 20名以上

救急外来患者 60名以上